

ジャーナリズムと宇宙物理学



僕の本「世界のいまを伝えたい」を読んでもくれた人は知っていてくれるかと思いますが、僕は戦場カメラマンはもとより、カメラマンになる気など全然なかった。

僕は大学で宇宙物理学を学んだので、将来は研究者になるか大学教授になるか、高校の理科の先生になると思っていた。

僕の人生不幸だらけで、滑って転んで、写真スタジオでバイトした事をきっかけにカメラマンになってしまった。

そして、海外旅行雑誌の撮影をしてる時、偶然パキスタン人と出会い、アフガニスタンと出会ってしまった。

「何故？その原因を知りたい」という探究心

せっかく学んだ物理学が全く生かされない仕事をしてしまっていると長年思っていた。が、、、つい最近、ジャーナリズムと宇宙物理学に重要な共通点があることに気づいた。

それは、「何故？その原因を知りたい」という探究心。そして、常識だからと鵜呑みにず、自分の目で見て考えて納得すること。

よく「常識」と言う言葉が使われるが、「常識」とは限られた時代と地域で認められるものであって、普遍的なものではない。江戸時代、男尊女卑が当たり前だったが、令和の現代では男女平等が「常識」。しかし、同じ令和の時代でも男女平等が「常識」でない国もある。時代と場所が変われば常識も変わる。

僕が大学時代、宇宙はビッグバンによって生まれ、その年齢は150億年と言われていた、その後ハッブル望遠鏡のように地上ではなく、宇宙空間から遠くの銀河を観測することができるようになり、宇宙の年齢は138億年と正確な数値が出てきた。

遠くの銀河を可視光で観測するのが「常識」だったが、ジェームズウェッブ望遠鏡は電波で観測することでより極めて高い観測性能を実現させ、ハッブル望遠鏡では理解できなかったこの領域に存在する銀河の詳細な形状を調べることができた。

そこで、驚くべき観測事実が明らかになった。遠方の宇宙において、「円盤銀河」が従来の予想の実に10倍も高い割合で存在していたことが判明したのだ。これによって誰もが正しいと思っていたビッグバン理論が揺らぎ始めた。僕の卒論のテーマだったインフレーション宇宙論も、見直されるようになるかもしれない。

少し難しい話になってしまったが、「天動説」と「地動説」を考えていただきたい。今では誰もが地球が動いていると知っているが、プトレマイオスからコペルニクスの時代まで実に1500年もの間「天動説」が信じられていた。現代においては当たり前とされている地球が太陽の周りを回っていて、自転もしているという事実。

夜空を見て、星が地球の周りをぐるぐる回っているのに、地球の方が動いていると理論的に説明できる人が何%いるだろうか？弛まない探究心と精密な観測によって、「天動説」では説明できない現象が見つかった。それは、夜空に見える火星の動き。火星の奇妙な動きは、「天動説」では説明ができなかった。

人類はなんと愚かな時代を続けていたのか、、、

16世紀(1543年)に天文学者のコペルニクスが「天球の回転について」と言う本を書き、地球が太陽の周りを回っているという地動説を提唱した。

その後、17世紀初頭(1600年)ジョルダノ・ブルーノは地動説を支持しつつ、宇宙は無限であるという現代物理学に通じるアイディアを提唱した。

これは当時の教会が推奨する「天動説」を否定するもので、ジョルダノ・ブルーノは宗教裁判にかけられ「異端」とされ、火炙りの刑で処刑されてしまった。

その10年後、皆さんもよく知るガリレオ・ガリレイが望遠鏡を使った精密な観測によって地動説が正しいと証明した。しかし、ガリレオもまた宗教裁判にかけられ、極刑こそ免れたものの、終身刑を言い渡されてしまった。ガリレオは「それでも地球は回っている」という言葉を残したとされている。



地動説と天動説について議論する人々 出典：スペースチャンネル

【天動説と地動説を議論する人々】

それでも教会の思想統制が強く、最終的に地動説が一般的になるまでコペルニクスの時代から200年もかかっている。そして、長い年月が流れ、1992年ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世がガリレオの裁判は誤りだったと教会の過ちを正式に認めた。それでも地動説は正式に認められていなくて、2008年12月21日、当時のローマ法王ベネディクト16世が、バチカンで信者らを前に、ガリレオに対して「彼の研究は信仰に反していなかった」と述べ、この日ようやく地動説が正式に認められた。

科学的な根拠がありつつも一つの「常識」を覆すのに、なんと長い年月が必要だったことか。その間、歴史に名を残さない多くの人々が「異端」として命を奪われてきた。多くの天文学者、物理学者が真理を探究するために命懸けの研究を続けてきた。

僕や僕の仲間たちは現代において、報道すべからずという事実に対して命懸けの取材をしている。国に嫌われ「異端」扱いされ、国によっては処刑されたり、消されたりする。

現代の「常識」である国防論、武力や核兵器による抑止力によって、人が飢えているにも関わらず人を殺す兵器に国家予算を使う世界の構造。100年後、500年後、もし人類が生き延びていたら、「人類はなんと愚かな時代を続けていたのか」と言われると思う。「常識」は変わっていくものだし、変えていかなければならないものだと思う。

講演会情報

2024年8月18日(月)

【講演会】18:30~19:40

【懇親会】19:40~21:00

【場所】ネパール・スパイス料理 イーマサラ

神奈川県大和市中央林間4-28-24

2024年9月21日(日)

【講演会】14:00~16:30

【場所】PlanT 日野市多摩平の森産業連携センター

東京都日野市多摩平2-5-1

編集
後記

サービス開始後1年を振り返る

「TRR」でのニュースレーターや動画配信サービスを始めて1年が経過した。先日、TRR会員の上位クラスメンバーで、1年の振り返りと今後について初めて会議なるものを開催。公式の講演会が10回、小さな上映会や写真教室も含めると14回の活動をしてきた。参加者数の累計でいうと200名近くにもなり、開催地も東京・福岡・埼玉と東京以外での開催も増えた。メンバーからの活発な意見もあり、2期目のTRRの活動に力が入る。引き続き久保田の活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

The Real Report 坂田兼一

The
Real
Report

発行元
問い合わせ先
発行責任者

合同会社G&G Marketing TRRサポートチーム
support@giveandgiven-marketing.com
坂田 兼一